

# Nakazawa Yoshihiro's P o r t f o r i o

“人々の生活を幸せにする”

そんなサービスに携わりたいです。





名前： 仲澤 義広

所属： 公立はこだて未来大学  
情報アーキテクチャ学科  
情報デザインコース  
学部3年

出身： 北海道千歳市

スキル： html,css,JavaScript,php,Illustrator

趣味： 音楽、映画、写真、旅行、スポーツ

WEB 制作

O t h e r

パスワードをお忘れですか？  
初めてのご利用ですか？

# Web 制作

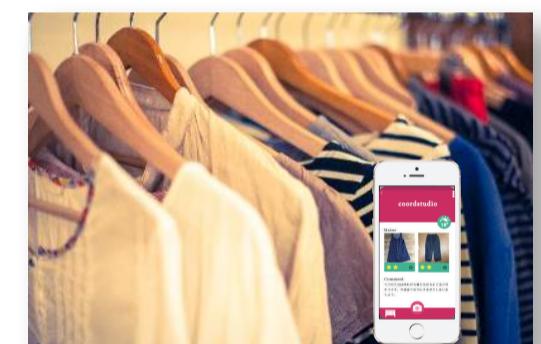
01 STUDENT web サイト



02 Wordrop



03 CoordeStudio



本校の学生専用サイト  
の改善

気になるワードを  
保管して検索する  
web アプリ

今日着る服を自動  
で選んでくれる  
web アプリ

# 01 STUDENT web サイト

リメイク前



リメイク後



## 本校の学生専用サイトの改善

本校、公立はこだて未来大学の学生専用サイトである「STUDENT」をリメイクした。ユーザーにとって分かりやすいデザインにするために、認知的な視点からサイトの問題点の調査と分析をした。分析結果を元に改善案を提示しプロトタイプを制作した。その後ユーザー評価をし、分析結果を元にさらに改善した。

コンセプト	ユーザーが分かりやすい、認知的負荷が小さいサイトのデザイン
使用したスキル	HTML,CSS,illustrator
制作期間	1ヶ月
授業名	HI 演習



## 改善前のサイトの調査と問題点抽出

実際に改善するサイトを利用し、調査した。自分自身、そして友人にもサイトを使ってもらい感想を聞かせてもらった。そうすることで、ユーザーがどの点で使いづらいと思うのか、どの点で困るのか、といったような、このサイトの問題点の抽出ができた。

## 現在開いているページがわからない

どのページも同じ配色で、どこにも現在開いているページを表している文字や表現がないので、現在開いているページがなんのページなのかわからなくなっている。

## 成績や時間割の表が見づらい

複雑な情報を文字と数字だけの表で表されており、縦軸と横軸を合わせて見ないと知りたい情報がわからぬい、非常に見づらい表になっている。

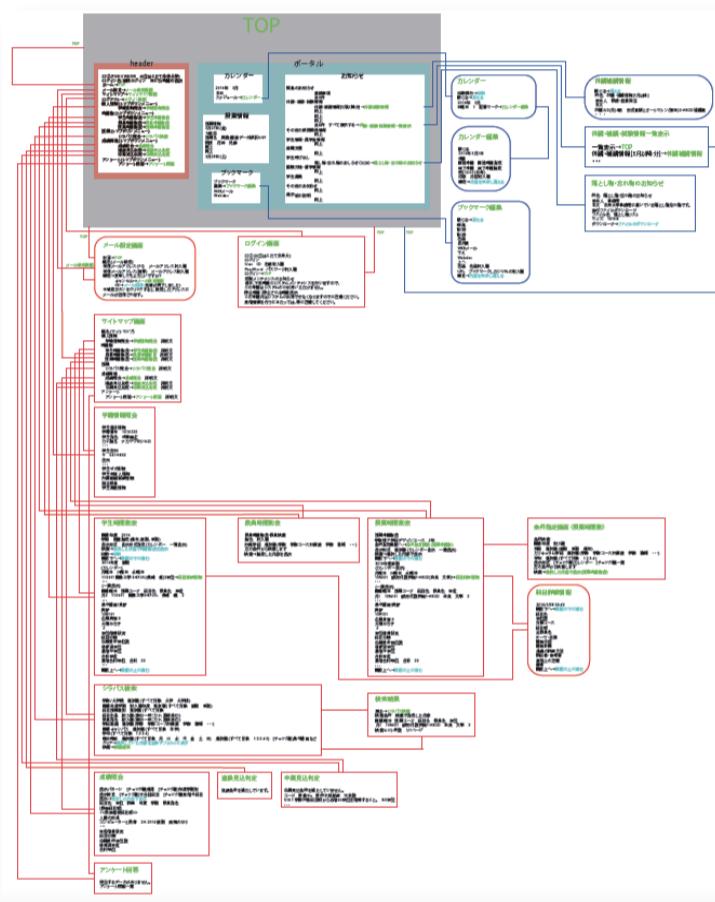
## リンクがリンクなのか分かりづらい

表になっていて、文字の羅列の中にリンクとなっている文字があり、存在感がなくてリンクなのかわからぬい状態になっている。そのようなリンクがこのサイトには多く見られた。

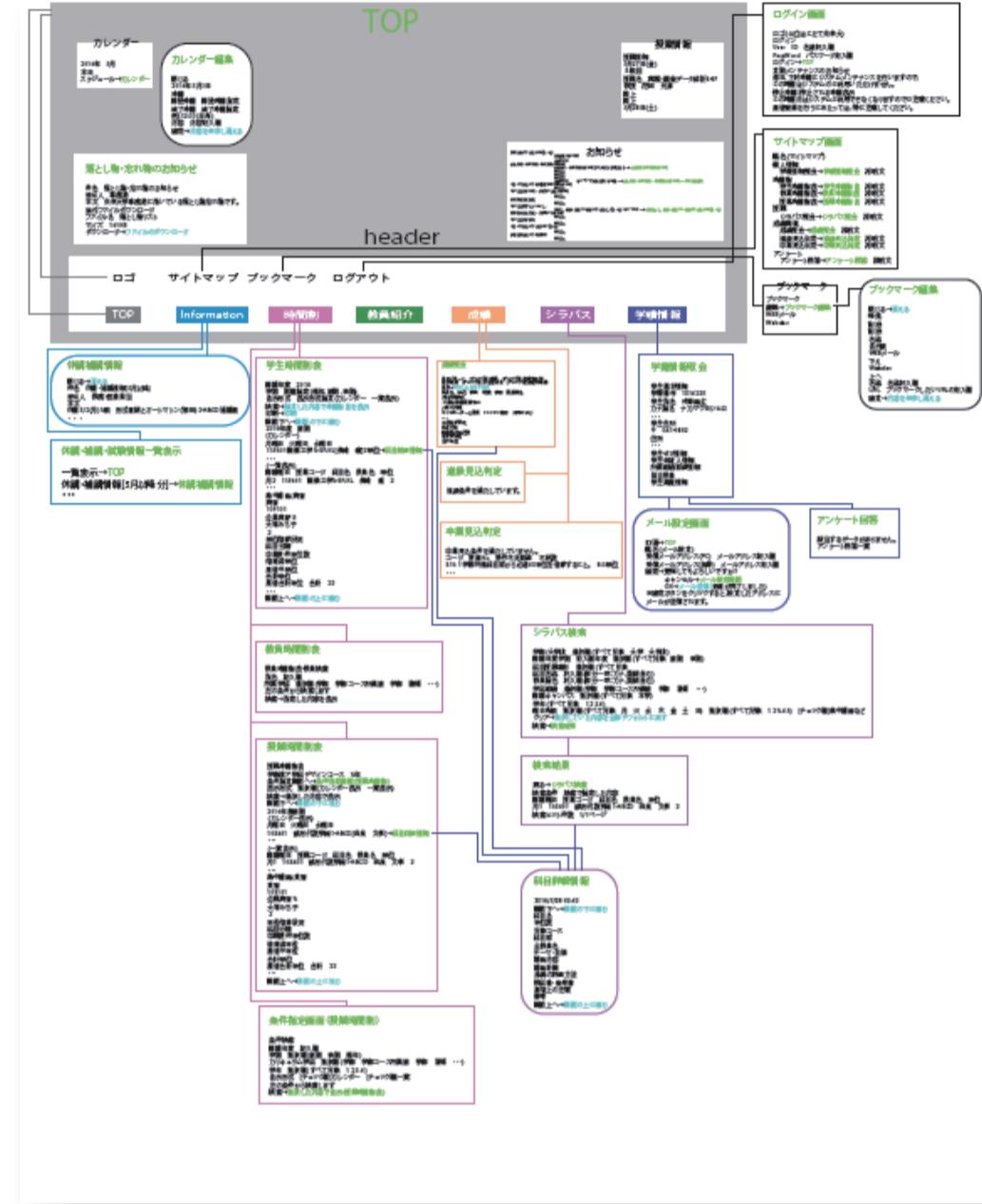
## 情報を構造化し改善案を考案

web サイトの分析をした。web サイトがどのような構成になっているのかを構造化することで把握し、問題点の抽出をした。その後改善案を考案し、ユーザーにとって扱いづらい情報の配置を並べ直したりまとめたりして整理した。

改善前



改善後



### 画面遷移が多く、たどり着きにくいページがある

シラバスなどのページは、一度検索をしてから各教科のシラバスのページにたどり着く。このように一度手間をかけなければたどり着けない。

### 同時に利用したい情報にすぐアクセスできない

例えば休講情報を利用していて、時間割の情報を見たい時に、一度ホームに戻ってから時間割のページを開かなくてはならない。

### 画面遷移を減らして見たい情報へのアクセスを容易にした

階層を減らすことにより、ホームからの画面遷移を減らした。サイトはどのページからもホームに戻れるようにしたので、ユーザーが欲しい情報へすぐにアクセスできるようにした。

### 関連性の高いページに、直接アクセスできるようにした

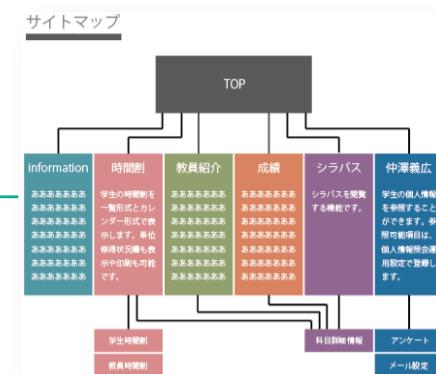
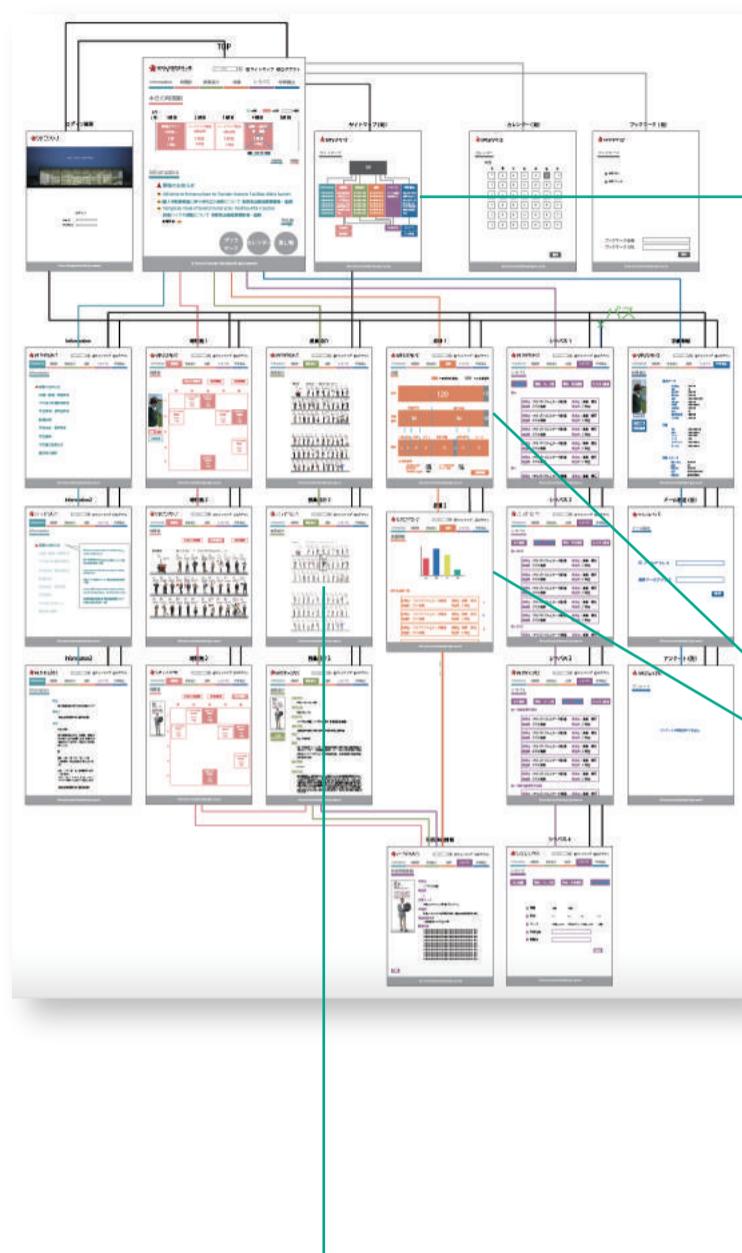
関連性が高いと思われるページへのリンクを必要なページに設けて、ユーザーの利用効率が上がるようにした。

# Process



## web サイトのレイアウト作成

整理した情報を illustrator を用いてグラフィック化し画面のレイアウトを作成した。視覚化することにより具体的な画面遷移の確認ができる他、コーディングをするための設計図にもなった。



### サイトの構成が一目でわかる

サイトマップでこのサイトの大まかな画面遷移の流れを表現し、サイトの構成をユーザーに理解してもらう。



### 直感的に情報を把握できる

見てすぐにわかるように、表になっていた成績の情報をグラフで表現した。これで比較なども容易にできるようになった。

### ヘッダーによるページの位置表示と配色による情報のグループ化

背景色を付けておくことで今見ているページがどこなのかを把握できる。情報のグループごとに配色をして各グループに印象をつけた。

### タブにして 1 ページに収め、画面遷移を減らした

元々ヘッダーのトップダウンで配置されていたページをタブで並べることで、1 つのページで完結し画面遷移も減った。

### 関連性の高いページへのリンクで、ユーザーの作業の効率をあげる

関連性の高いページへのリンクを置くことでページを探す時間を省き、ユーザーの作業効率をあげる。



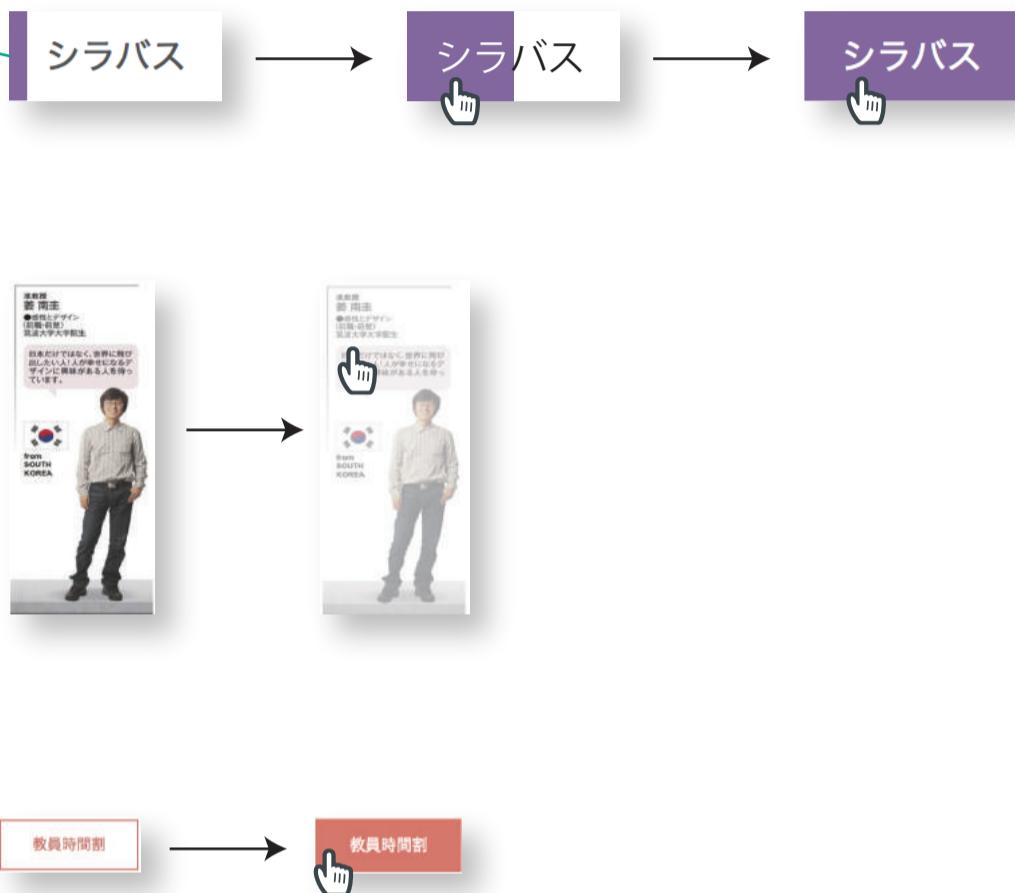
# Process



## コーディングによるプロトタイプの作成

レイアウト制作の時は考えることがなかった、サイト操作時のエフェクトをコーディングをしながら、試行錯誤しプロトタイプを完成させた。

ホバーエフェクトでリンクであることを理解させる



拡大して他の項目と差別化し、強調して選択しやすくした

```

    <!DOCTYPE html>
    <html lang="ja">
    <head>
        <meta charset="UTF-8">
        <title>TOP</title>
        <link rel="stylesheet" type="text/css" href="top.css" />
    </head>
    <body>
        <div id="header">
            <a href="#">TOP</a>
            <a href="#">Information</a>
            <a href="#">時間割</a>
            <a href="#">教員紹介</a>
            <a href="#">成績</a>
            <a href="#">シラバス</a>
            <a href="#">仲澤義広</a>
        </div>
        <div id="main">
            ...
        </div>
    </body>

```

```

    body {
        background-color: #f0f0f0;
        font-family: sans-serif;
    }
    #header {
        background-color: #333;
        color: white;
        padding: 5px;
        text-align: center;
    }
    #header a {
        color: inherit;
        text-decoration: none;
        margin: 0 10px;
    }
    #header a:hover {
        background-color: #333;
        color: white;
        border-radius: 5px;
        padding: 5px;
        text-decoration: none;
    }
    #main {
        padding: 20px;
    }

```

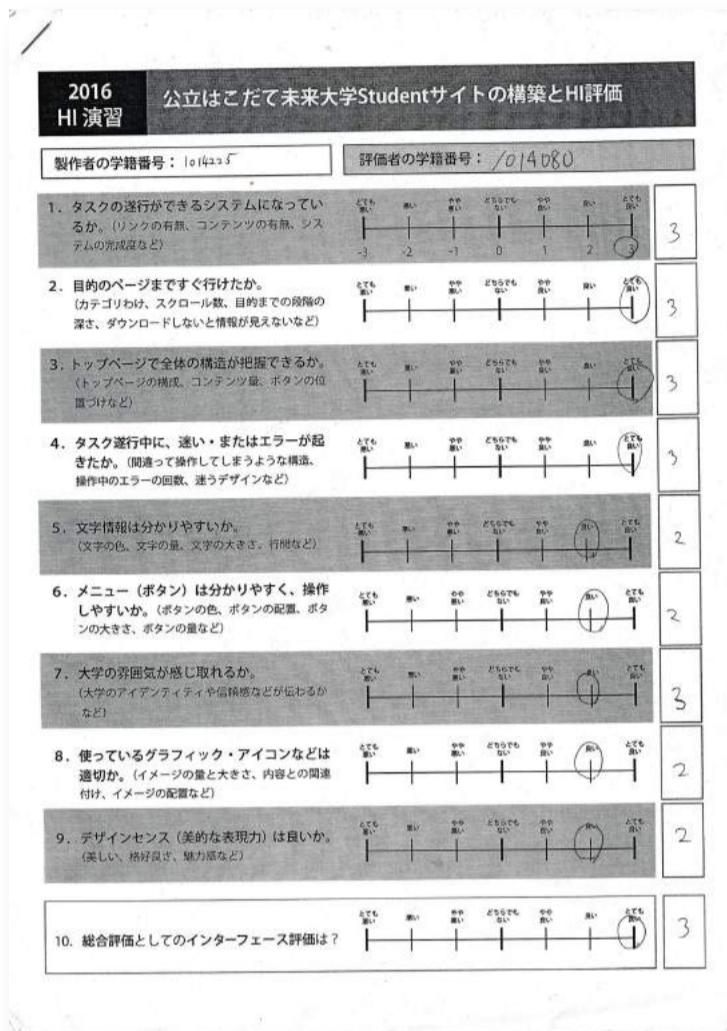
HTML,CSS によるコーディング

# Process

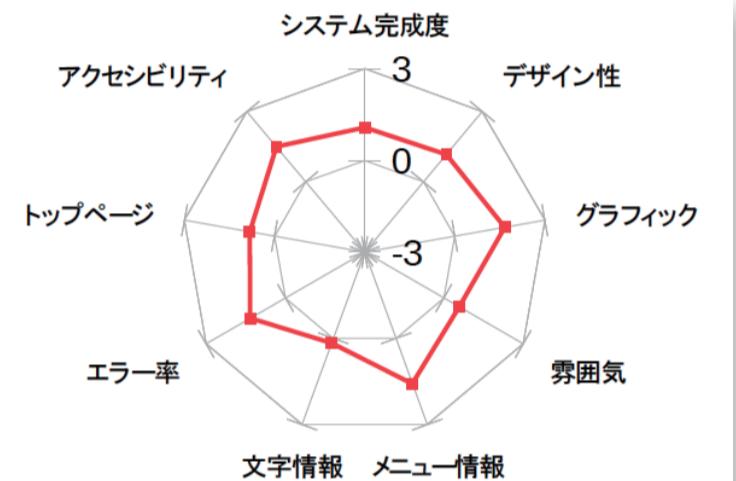


## ユーザー評価とその後の改善

制作したサイトが本当にユーザーにとって使いやすいのかを確かめるために、評価実験を行ってサイトの改善点を抽出した。実験の内容は元々用意されている 12 種類のタスクをユーザーが私の web サイトを使って行うものである。12 人のユーザーに協力してもらい、ユーザーは 1 人 1 タスクずつ行ってもらう形だ。タスクを実行するにあたって使いやすい点、使いづらい点を評価してもらった。



評価実験用紙

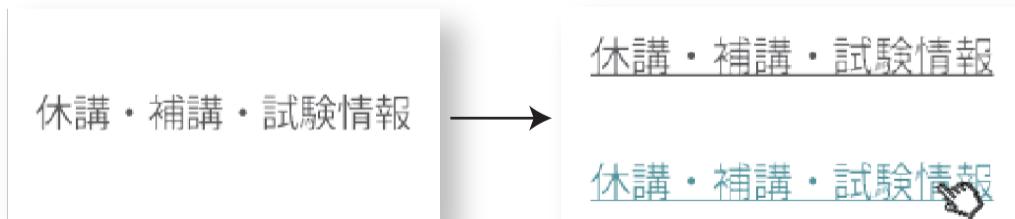


評価実験結果

全体的には高評価だったものの、「文字情報」に関しては評価の低い結果になった。文字情報に関する以下二つの問題を見つけ出し、改善した。

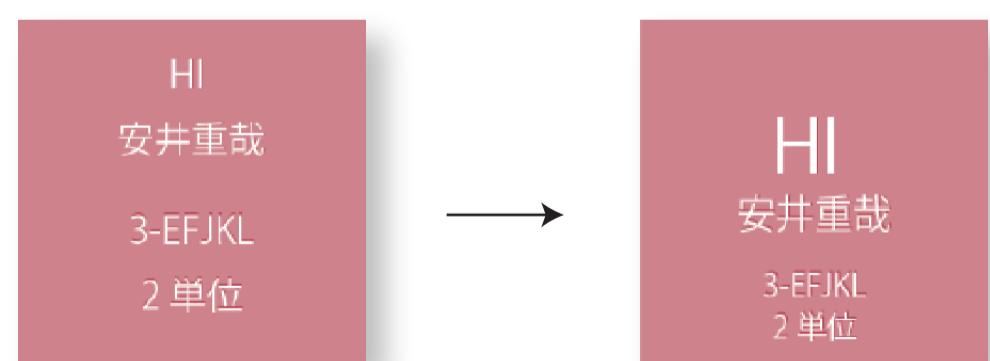
## 実際に改善した

色変更や下線の追加でリンクであることを分かりやすく



文字にリンクが張ってある部分がいくつかあったのだが、エフェクトを何もかけていなかったのでリンクなのかどうか分かりづらくなっていた。そこで下線や色を加えることで分かりやすくした。

文字にサイズの大小を付け加えることで分かりやすく



科目名が一番大事な要素なので大きくして、他の文字を小さくし、文字に優先度をつけて目立つようにした。

## 02 Wordrop



### 気になるワードを保管して検索する web アプリ

私は JPHacks というハッカソンに 5 人で出場して、野村証券様からスポンサー賞を頂きました。お題は「X-tech」ということで、technology を駆使してあらゆる業界に innovation を与えるのが今回の目的でした。その中で私たちは「雑誌業界」に注目し、企画を行いました。雑誌の気になるワードを指でなぞったら web に保存してくれて、雑誌を読み終わった後保存したワードをクリックするとそのワードについて調べてくれる web アプリケーションです。

■ コンセプト	読書で気になることを逃さないサービス
■ 使用したスキル	HTML,CSS,JavaScript,illustrator
■ 制作期間	2 日
■ イベント名	JPHacks

# どんなサービス？ - 製品概要 - 指でなぞって保管する



気になった文字を指でなぞる



文字を送信



送信された文字を表示

## 文字のカテゴリーごとに配色を分けた

- 場所名
- 人名
- その他

## 気になった回数順に文字の大きさを変えた

全体ユーザーのなぞっている回数によって多ければ多いほど文字が大きく表示される

トレンディーエンジェル < 明石家さんま < 吉本興業

→気になる回数が多い



## クリックするとその文字の詳細を表示する



## 場所ならその場所の位置情報も表示



何のためのサービス？ - 目的と背景 -

## あなたの「気になる」を逃さない

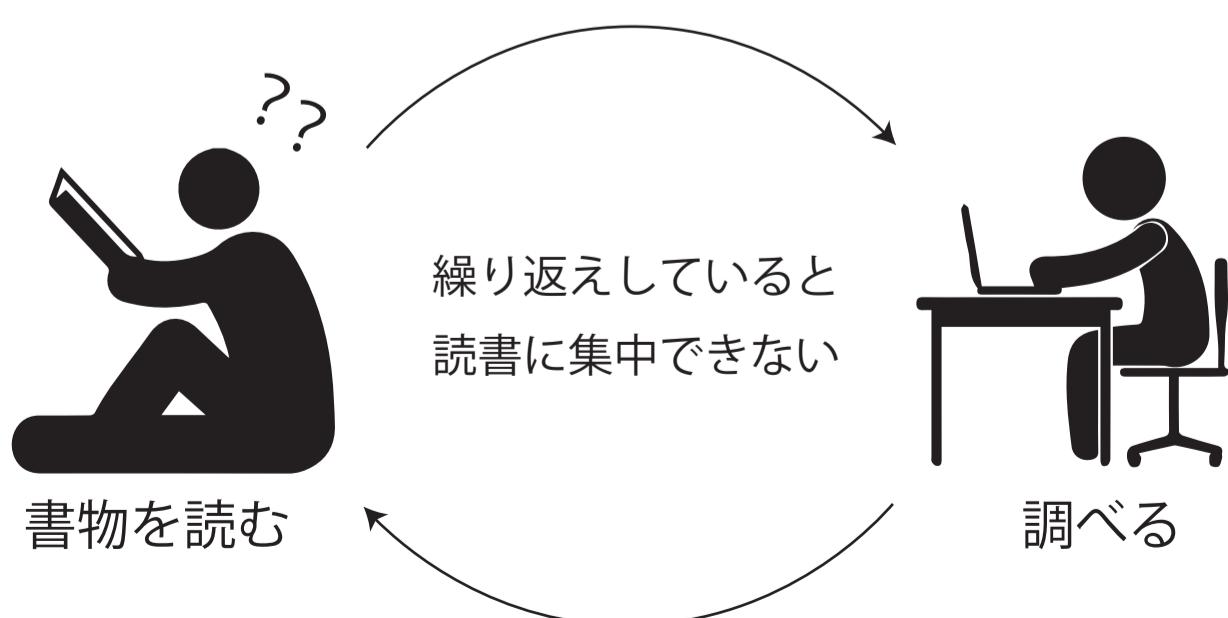
雑誌などの書物を見ている時、わからないワードや気になるワードが出てくることがありそれを後々調べようとする。しかし、後々調べようとしていたことを雑誌を読み終わると忘れてしまったり、何が気になっていたのかを忘れてしまったりする。wordrop を使えばそのような問題を解決し、自然な読書を邪魔することなく、好きなものを好きなだけ調べられる。

## 読書における問題点

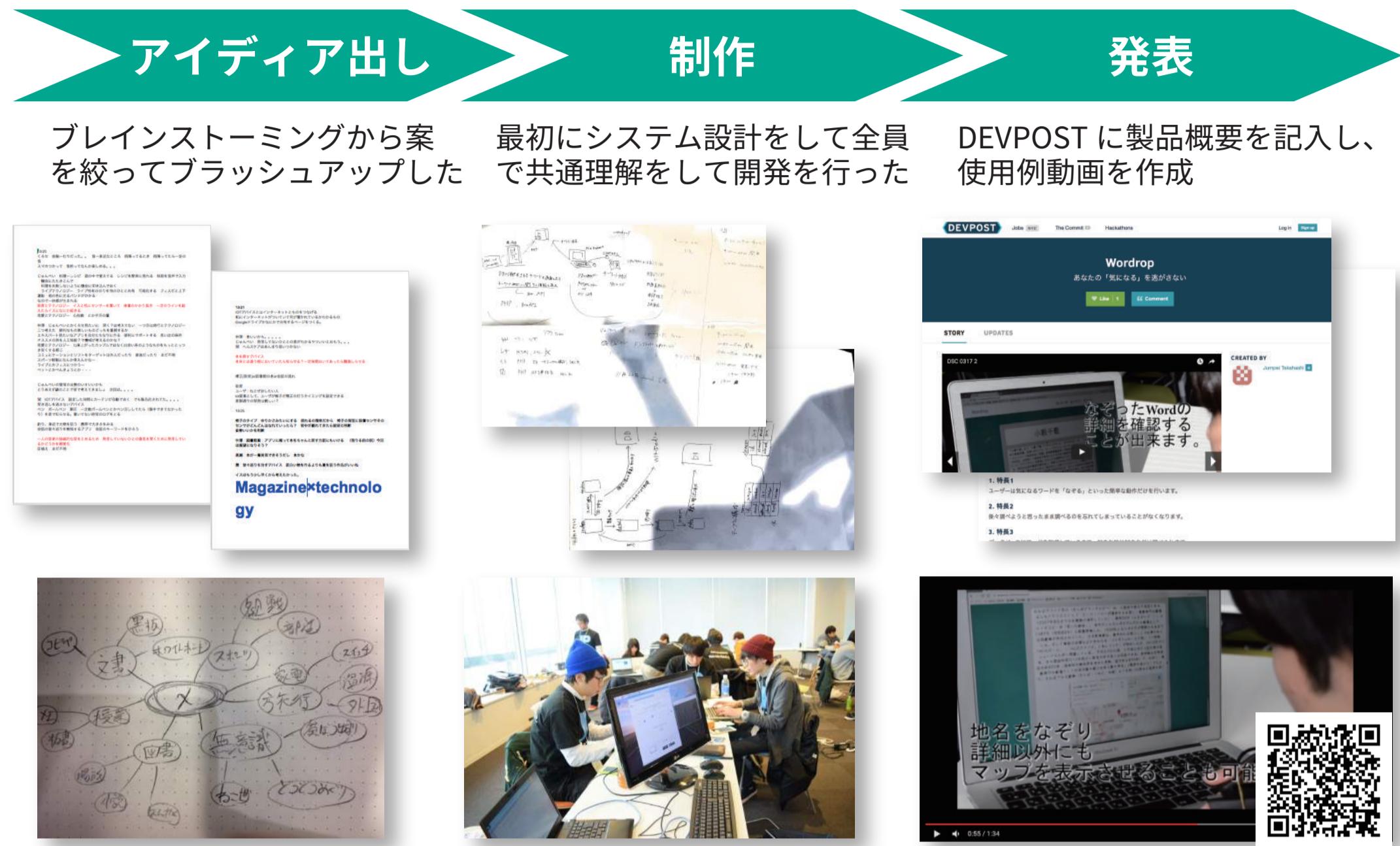
後々調べたいことを忘れてしまう



いちいち調べていると自然な読書の妨げになる



- プロセス -



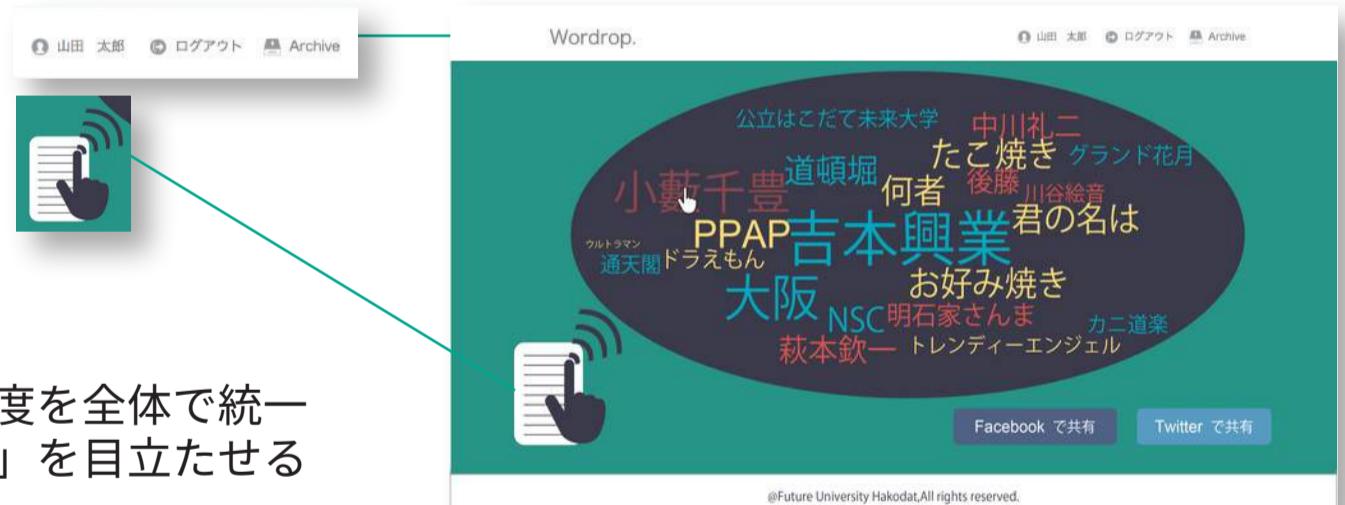
## - 役割 -

# シンプルで使いやすい UI 設計と 整ったコーディング

## アイコンを使用して直感的に分かりやすく

色の透明度を全体的に統一

違和感がないように清潔感のある透明度を全体で統一している。その中でも「気になる文字」を目立たせるように他の文字は小さくしている。



# コメントをつけてマージしやすい整った コーディング

サーバーサイドの人が最終的にマージしやすいように細かくコメントを書いて、構造がわかりやすいうんにスペースなどを一定間隔で開けてわかりやすくした。

index.html	index.css
------------	-----------

```
1 <!DOCTYPE html>
2 <html lang="ja">
3 <head>
4   <meta charset="UTF-8">
5   <title>index</title>
6   <link rel="stylesheet" type="text/css"
7     href="style.css">
8 <body>
9   font-family: '小顔ゴシック ProGN R', 'ヒラギ
10  }
11 </style>
12 </head>
13 <body>
14
15 <div class="header">
16   <div class="container">
17     <div class="header-left"><!--ヘッダーライ
18       <a href="index.html">Wordrop.</a>
19     </div>
20
21     <div class="header-right"><!--ヘッダーラ
22       <ul>
23         <li><a href="archive.html" ><img
26           </li>
27         </ul>
28       </div>
29     </div>
30   </div>
31 </body>
```

```
1 a {
2   text-decoration: none;
3 }
4
5 li{
6   list-style: none;
7 }
8
9 .container {
10   width: 1170px;
11   margin: 0 auto;
12 }
13
14
15
16 .header{
17
18   height: 60px;
19   border-bottom: 1px solid #ddddd;
20   background-color: white;
21   padding:10px 30px;
22 }
23
24 .header-left{
25   float:left;
26   padding:10px 30px;
27 }
28
29 .header-left a{
30   color: #000000;
31   font-size: 30px;
32 }
33
34 .header-left a:hover{
35   color: #3b9485;
36 }
37
38 .user{
39   position: relative;
40   top:10px;
41 }
```

- 結果 -

## 野村証券（スポンサー賞）受賞



東京で開催される授賞式に招かれたので、参加させていただきました。



野村証券の方に賞をいただきて社員さんとのディナーと高級なトマトを頂きました。

**JPHACKS**

野村證券賞

野村證券金融工学研究センター長、クオンツ・アナリスト数名等との食事会+野村グループの野村アグリプランニング&アドバイザリーの経営する「野村ファーム」で栽培したトマト（愛称「ノマト」）

Wordrop / [futurebody]

本や雑誌を読んでいるときに、直感的に気になる情報を抜き出し、後から見るためにまとめて貯蔵しておくことが可能なデバイスです

参加会場： 北海道会場  
使用技術： goo API Google Maps API Google Vision API Raspberry Pi

JPHACKS の web サイトに結果を載せていただきました。

## 03 CoordeStudio

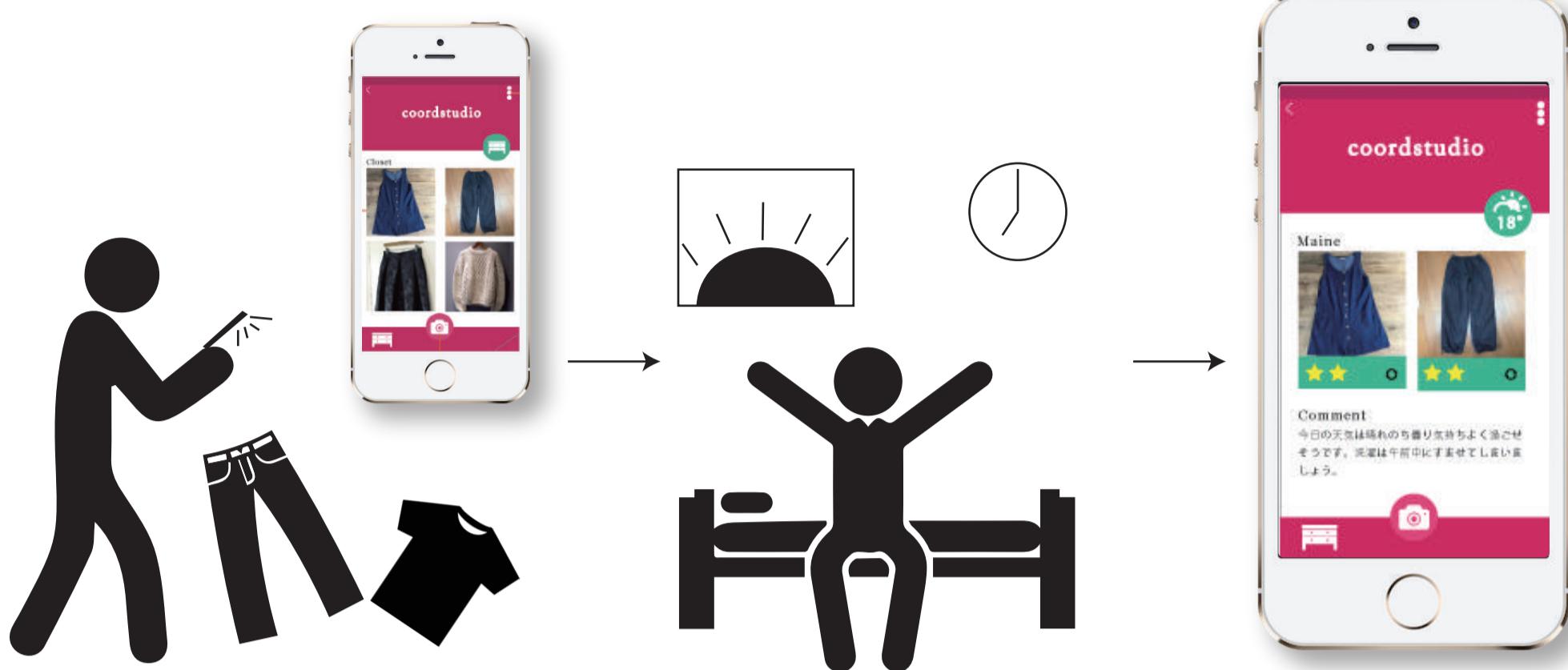


### 今日着る服を自動で選んでくれる web アプリ

私は FUNHACKS というハッカソンに 5 人で出場しました。お題は「ライフスタイルの HACK」でした。普段の日常生活の中で不便に思うことや、もっとこうしたら良くなるということを、情報技術を利用して改善するというものです。その中で私たちは、毎日着る「服」を着眼点にしました。毎朝、その日に着る服を選ばなくてはならない煩わしさを解消するのが目的です。その日の天気や気温に合わせて最適なコーディネートを選んでくれます。

■ コンセプト	朝の服選びを悩ませないアプリ
■ 使用したスキル	HTML,CSS,JavaScript,php,illustrator
■ 制作期間	2 日
■ イベント名	FUNHACKS

# どんなサービス？ - 製品概要 - 服を自動で選んでくれる



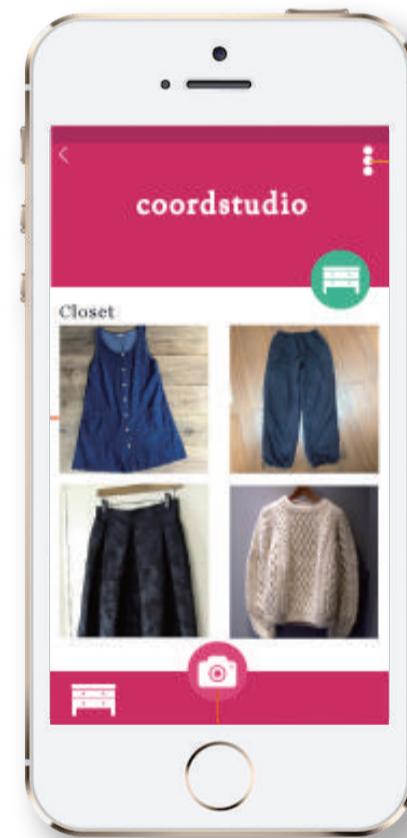
自分の服の写真を撮って、  
仮想のクローゼットに保管

朝起きた時にアプリを起動

服を選んで提示してくれる

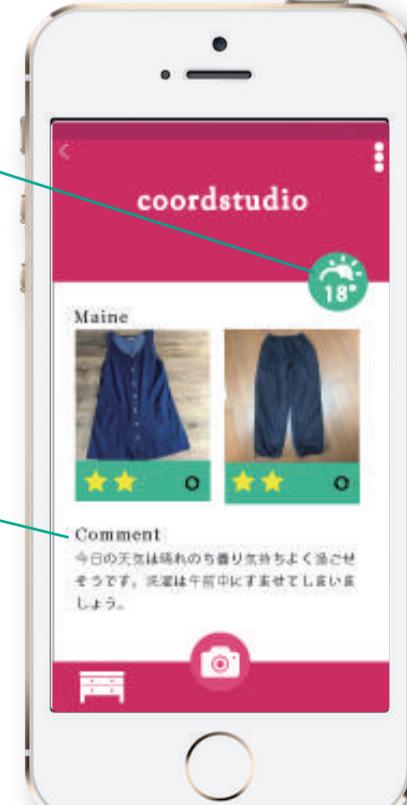
## 写真を撮ってクローゼットに保存

真ん中下のカメラボタンを押してカメラを起動させて写真を撮ると  
仮想のクローゼットに服が保存される。撮った服は「種類」「色」が  
判別されて上着なのかパンツなのかが判断される。色も判別してい  
るので、上着とパンツが同色のものがオススメされることはない。



## 服をその日の天気や気温によって選んでくれる

天気の情報を取得してそれに対応するアイコンを表示。  
その天気と気温によって服を選んでくれる。  
(例：春でも寒い日はカーディガンをオススメ)



## その日の気温の変化によるアドバイスをしてくれる

その日の気温の変化具合によって、上着を持って行った  
方が良いなどのアドバイスをしてくれる。  
(例：本日は、午後から冷え込むので上着をわすれずに！)

何のためのサービス？ - 目的と背景 -

## 選ぶことによる負担を軽減

毎朝、服を選ぶのが面倒くさいし時間がないから選べないという人のために制作した。ターゲットとしては、私服通学・通勤している学生や社会人である。このアプリが毎朝服を選んでくれることで、選ぶために使う時間や余計な考え方を削減できる。さらに気温に合った服を選んでくれるので安心して利用出来る。

## 朝の服選びにおける問題点

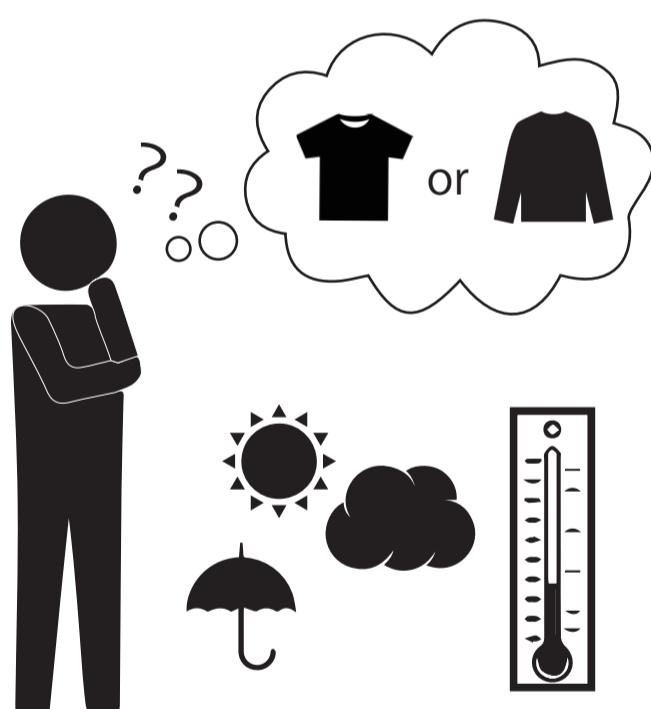
### 選ぶのに時間がかかるてしまう

朝、寝坊しそうであったり急がなくてはならない時に、服を選ぶときは時間をかけたくない。でも、適当な服では出かけられない。結局時間をかけてしまいます。



### その日の気温に合った服装が分からない

朝極端に冷え込んでいたり、朝だけ暖かったりする日が度々ある。しかし、一々天気予報を確認している暇は、朝だと特にならないのが現状である。



### 選択や決断をすると、判断力や集中力が削がれる

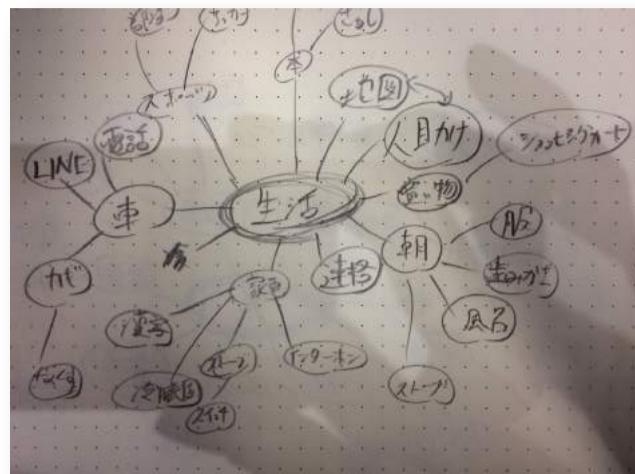
選択や決断をすると、脳に負担をかけ、判断力や集中力を鈍らせるという研究成果がある。現にスティーブ・ジョブズやアインシュタインなどの偉人も大事な日は集中力を削がないように同じ服を着ると決めている。



## - プロセス -

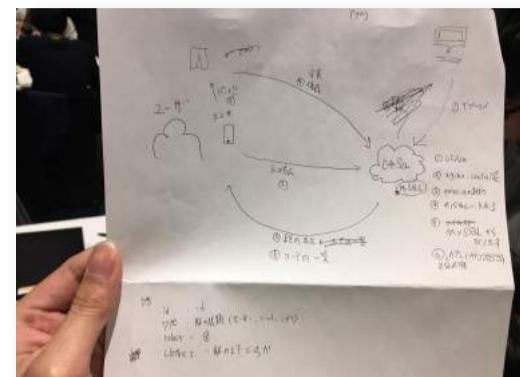
### アイディア出し

ブレインストーミングから案を絞ってブラッシュアップした



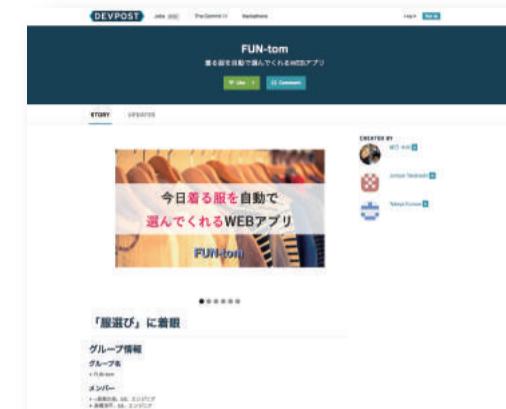
### 制作

最初にシステム設計をして全員で共通理解をして開発を行った



### 発表

DEVPOST に製品概要を記入してまとめた。



## - 役割 -

### 初めての PHP を使ったコーディング

#### API を使って天気の情報と気温の情報を取得

天気の API を使って、函館市の天気の情報と気温の情報を取得。

#### 天気によってコメントとアイコンを変更

その日の天気によって if 文を使って表示の内容を場合分けした。

#### 撮影した画像をデータベースに保存する

スマホによって撮影された写真を撮り終わった後にデータベースに保存されるようにした。

#### エンジニアに興味を持ちエンジニアとして出場

今までデザイナーとして参加していたが作ることの方が自分がやりたいことだと気付き、エンジニアとして初挑戦した。結果的には難易度の低い作業しか成し遂げることができなかったが開発におけるエンジニアとしての立場を少し知ることができた。



# Other

04 Priming



05 6sensor



06 AsianDesignWorkshop



“西部地区” の魅力を  
伝えて興味を持って  
もらう企画

視線を握って感じる  
タンジブルデバイス

異国の人々と 10 日間  
の交流

## 04 Priming

FUN WESTERN COLLECTION

開催日時 5月28日(土)  
11:00 - 17:00  
開催場所 公立はこだて未来大学

### FUN WESTERN COLLECTION とは

公立はこだて未来大学のキャンパス前、緑が生い茂る広場で「函館西部地区」を堪能できるイベントです。未来大生の見つけた西部地区の美味しい食べ物やおしゃれな雑貨・洋服を集めました。普段西部地区にはあまり足を踏み入れないという方もこの機会にぜひ、西部地区の魅力に触れてみませんか？



### 店舗一覧



①まんまるの月夜



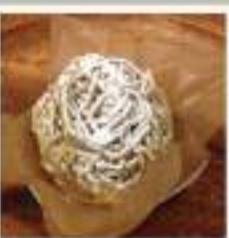
②みかづき工房



③インポートギャラリー  
LOFT



④元町ぱんぱん



⑤Angelique Voyage



⑥えるじろう



⑦Pazar Bazar



⑧tambale



⑨レイモンハウス



⑩TACHIKAWA Cafe



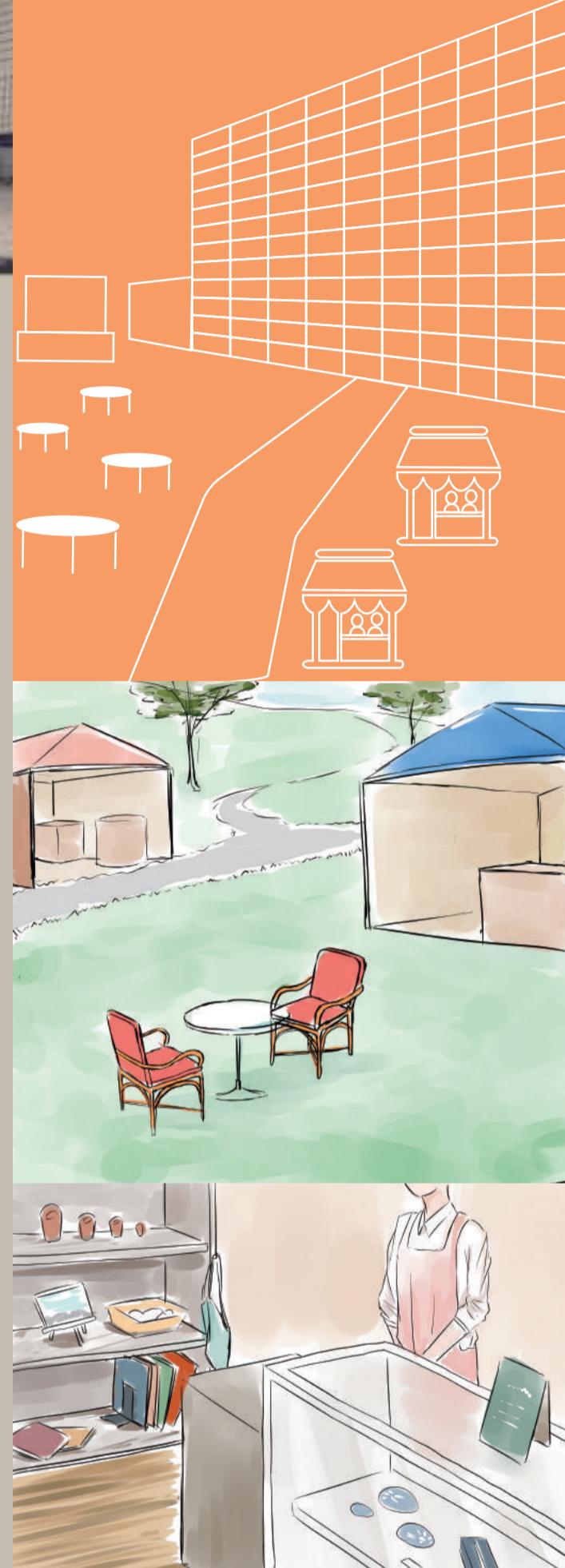
### メッセージ

函館の魅力の一つである「西部地区」を未来大生にも味わってもらいたい。そして西部地区をもっと利用してほしい。そんな思いで私たちはこのイベントを企画しました。

未来大生は美原や五稟郭、大学近くに住んでいる場合が多く、自宅周辺のみで満足に生活できる環境が整っています。そのため、観光地やイベント目的以外で西部地区に足を運ぶことがあまりありません。これでは西部地区の魅力を堪能しきれていないのではないかと思うのです。

このイベントを通して西部地区の魅力に気付き、訪れたいと思っていただければ私たちにとってこれ以上幸せなことはありません。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

Group7 Trigger Project



## “西部地区” の魅力を伝えて興味を持ってもらう企画

私は学部2年の時に、函館西部地区に未来大生を行かせるための何かを制作する授業を行った。グループに分かれての制作で、まず西部地区に行って FW をして、そこで思った事をまとめて、制作にあたった。私たちは未来大生に実際に西部地区に行かせるという FW 型の授業を考案し、企画をするにあたって必要なものをプロトタイプとして制作した。

■コンセプト

FW によって魅力を体験してもらう

■使用したスキル

illustrator, AfterEffects

■期間

1ヶ月

■授業名

情報表現基礎3

※FW=フィールドワーク

西部地区とは？ - テーマ -

## 独特で魅力的な西部地区、未来大生は行かない

西部地区は昔の函館の人々が異国の文化を取り入れた事による独特な街並みが特徴的で函館の魅力の一つと言える。しかし、未来大生が生活している場所からは遠く離れていてわざわざ西部地区に訪れる人は少ないので現状だ。そこで私たちは未来大生が西部地区に興味を持つもらうための“きっかけ”となる企画を考案した。



どんな企画？ - 企画概要 -

## 授業として未来大生に西部地区の魅力が詰まったイベントを開催してもらう

未来大生の学部2年の授業として、西部地区のお店の屋台が集まったイベントを企画運営してもらう。という企画。

### ①実際に西部地区に行って FW をしてもらう

まず、イベントの企画運営をしてもらうにあたって西部地区の事を知ってもらうために西部地区を FW してもらう。FW に行く前にイベントの流れを知ってもらうために説明の動画を見てもらう。



### ②お店の人に交渉して、未来大学で屋台を開いてもらう

FW している間に気に入ったお店があれば、そのお店にイベントに出でもらえるように交渉する。交渉が済んだ後は、お店の人と連携を取り、イベント当日まで出店の計画を練る。



### ③未来大学で西部地区のお店の屋台が集まったイベントを開催

交渉を済ませたお店と協力して屋台を出店しイベントを開催してもらう。イベントの参加は地域住民でも他の未来大生でも可能。



- 目的 -

# 一度行ったらまた行きたくなる西部地区の魅力を知ってもらう

私たち自身が授業で FW をした結果、西部地区の魅力を知る事ができ、もう一度行きたくなかった。さらに先輩などにアンケートを取った結果、一度西部地区に行った人は再度訪れてる事がわかった。そこから、授業などの強制力のあるものを利用して、一度西部地区に行かせようと思った。さらに、西部地区は魅力があるのだが独特な雰囲気もあって初見だとお店に入りづらいという難点があるので、授業として行かせることで、お店に入りやすい環境にした。未来大学でイベントを開催することで、他の未来大生の目にも止まり、魅力がより知れ渡ると思った。

- プロセス -

## 初めての FW とインタビュー



### ① フィールドワーク

西部地区でご飯を食べたり、買い物をしたりして実際に西部地区を堪能して西部地区の魅力とは何か、なぜ未来大生は行きたくないと思うのかを考えた。



### ② インタビュー

西部地区に詳しい、函館の町おこしを行っている「函館街づくりセンター」の方にインタビューして西部地区の現状と問題について詳しく聞いた。



### ③ アイディア出し

FW とインタビューから、現状の把握や問題点をポストイットで洗い出しました。まとめた後にアイディアを固めた。



### ④ プロトタイプ制作

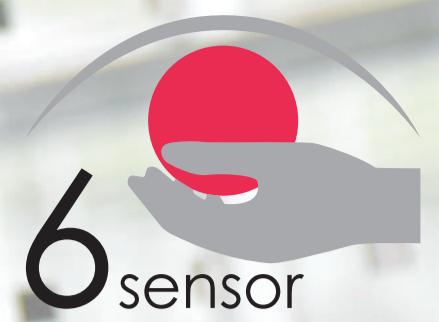
実際に自分たちの考えた企画があるとすれば何が必要なのかを考えて、プロトタイプを作成した。



### ⑤ 発表

最後に、他のグループと教授の前で発表してフィードバックをもらった。

## 05 6 sensor



### 視線を握って感じるタンジブルデバイス

私は学部2年の時に、普段は触れることがないものを「タンジブル」という実体のあるものにする事を目的とした制作を授業内に行った。制作はグループに分かれてグループ単位で行われた。私たちのグループでは、普段は触ることがない「視線」に触ることができたら感情や行動に変化をもたらすことができるのではないかと思い、視線を手のひらで感じるデバイス「6sensor」を制作した。

- コンセプト 視線を感じることで感情や行動に変化をもたらす
- 使用したスキル illustrator,AfterEffects,Arduino
- 期間 1ヶ月
- イベント名 情報デザイン2

どんなデバイス？ - 製品概要 -

## 第六感を感じる六つ目のセンサー

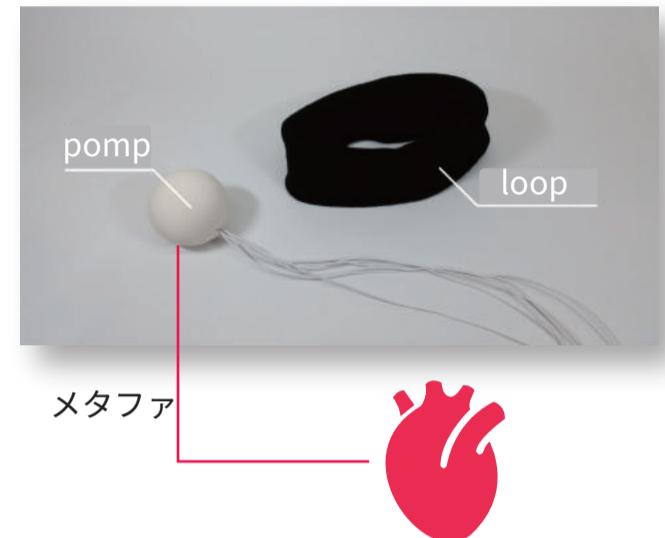
人間には、五感という5つのセンサがある。6 sensor は、握ることで第六感を感じる6つ目のセンサである。人間は自分に向けられている視線の量を正確に検知することができない。しかし、検知できるようになれば生活が変わるものではないかと考えてこのデバイスを制作した。



第六感を感じる6つ目のセンサー

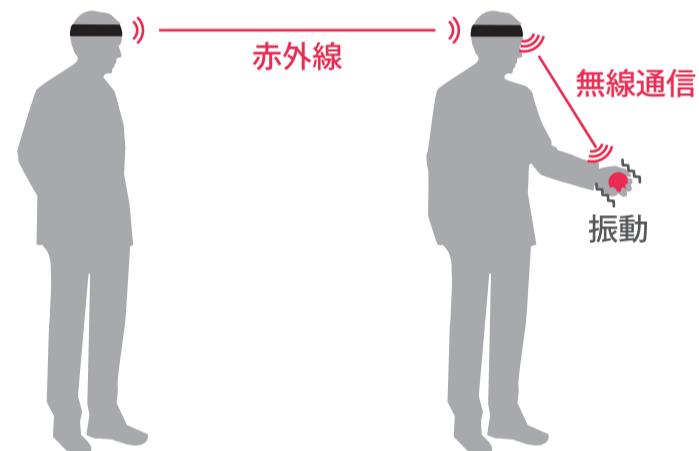
### pomp と loop

6 sensor は2つのデバイスで成り立つ。頭につけて視線を送る役割を持つloop、視線を振動として伝えるpompだ。pompは心臓のメタファーを意識して作っている。多くの視線を感じると人間は緊張し鼓動が速くなることがあるがそれをモチーフに作られていて、視線の量が多くなれば多くなるほど pomp の振動は速くなる。直感的に感じることができるのが特長だ。



### 実際の使い方と仕組み

まず、頭に装着する赤外線送受信デバイス loop から赤外線が送信される。送信された赤外線を受信することで人に見られたと判断し、受信したデータは無線で loop から pomp に送信される。受信した量により pomp の振動は速くなる。



なんのためのデバイス？ - 目的 -

## 視線を感じることで行動や感情に変化をもたらす

### 自分の状況把握ができ気づけないことに気づける

自分では気づけないようなことも視線を感じれば自分の状況をもう一度見直すことができる



### 注目度からチャンスを見つける

自分をアピールしたい時、注目されているタイミングがわかればアピールをしやすくなる。



## 06 AsianDesignWorkshop



### 異国の人々と 10 日間の交流

私は、8/1 から 10 日間韓国で行われた「AsianDesignWorkshop」に参加しました。参加した学生は、韓国・日本・中国・シンガポールの四カ国の大学の学生で、日本からは我が校の他に芝浦工業大学が参加しました。東京の他大学との交流と、一気に三カ国の異国的学生と交流することができ貴重な体験となりました。さらに、皆専門としている分野が違い良い刺激にもなりました。

■ コンセプト	異文化の人たちとのコミュニケーション
■ 使用したスキル	illustrator
■ 期間	10 日
■ イベント名	AsianDesignWorkshop

- プロセス -

## 共に行動することで次第にわかりあっていく

DesignWorkshop ではまずいくつかのグループに分かれて最後の発表まで一緒に行動するというものでした。韓国の街中を FW してコミュニケーションをとっていくことで、次第に仲が深まり、言葉は違えど親しい友人になることができました。



### ① アイスブレイク

参加大学である 5 つの大学の学生と教授が集まりテーマの発表とグループの配属をした。その後焼肉と一緒に食べてアイスブレイクを行った。



### ② フィールドワーク

韓国の街中で買い物や食事をし、アイディアの種となるようなものを指定のスマートアプリで撮影・保存して共有した。



### ③ ブレインストーミング

各自、自分の国のことや FW で撮った写真から思った事や考えた事をポストイットに書いて貼り付けてまとめた。



### ④ テーマ決め

最終成果物をどんなテーマに沿って作るのかを決めた。全体的なテーマが「何かと何かを掛け合わせる」という物だったので私たちは、「communication × travel」に決定した。



### ⑤ アイディア決め

決めたテーマに沿って、1 人 1 案以上アイディアを考え、全員に共有した。その中から 1 つに絞った。

### ⑥ 制作

各自役割を与えられて制作に取り組んだ。私はアプリケーションの UI デザインを担当した。

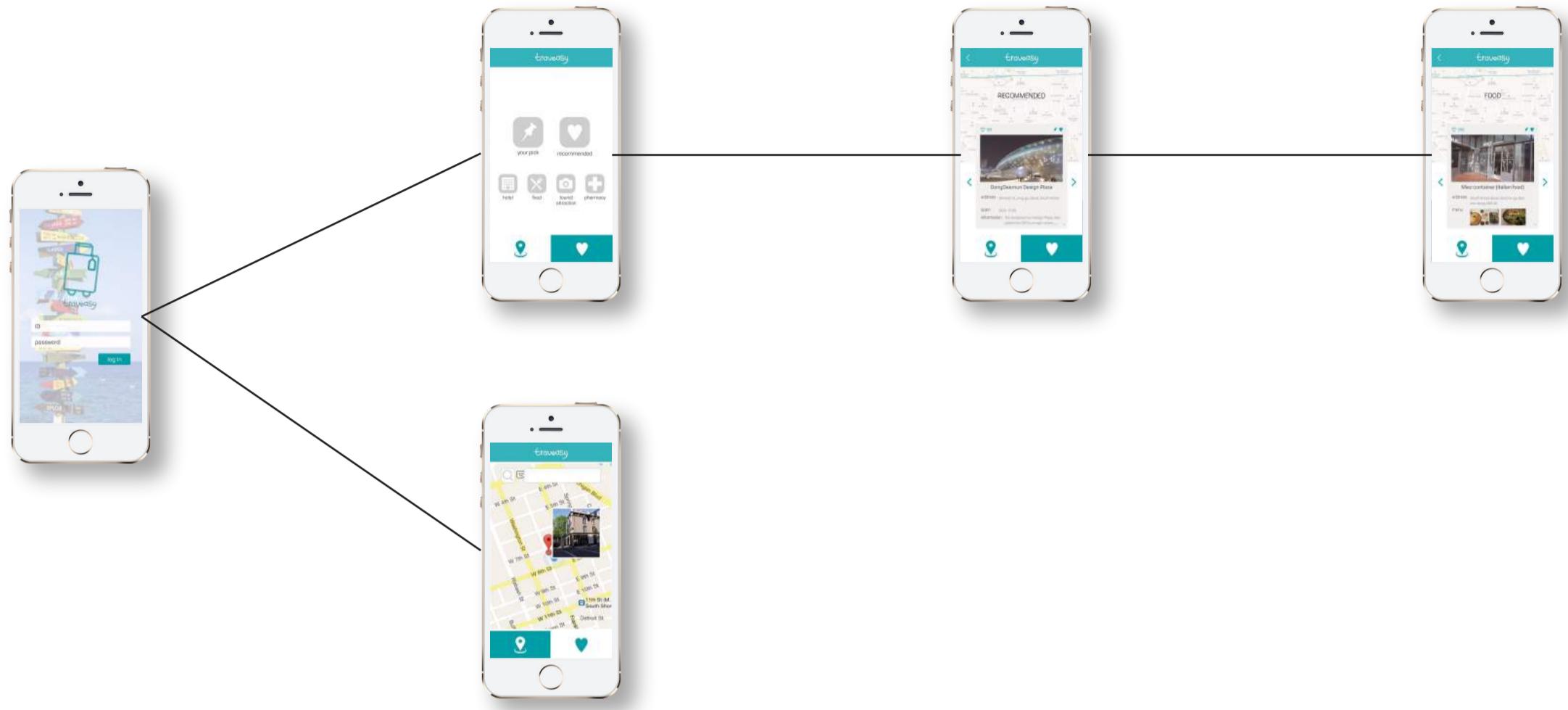
### ⑦ 発表

最終成果物を他のグループと教授の方々に、プレゼンテーションして、フィードバックをもらった。

- 役割 -

## アプリの UI デザイン

私たちのグループが考えたのは、旅行するにあたって良いと思った場所をオススメし合うアプリケーションだ。旅行も楽しくなり、他のユーザーとのコミュニケーションが出来る。



- 学んだ事 -

## 外国に滞在して初めて気づかされた事

### 言語の違いによるコミュニケーションのすれ違い

議論中に意見のすれ違いがあり、それが最後の方で発覚してグループ内で一度口論になってしまった。共通理解の重要性を感じた。英語を母国語としているシンガポール人や流暢に話せる韓国人が有意に議論を進めていて、自分たちの意見や主張は通りずらく、悔しい思いをした。

### 文化の違い

他の国では食事の挨拶がなかったりなど、カルチャーショックを受ける事が多々あった。特に韓国の徴兵制度。徴兵制度の存在は知っていたが自分たちと同じくらいの歳の学生が実際に軍隊として鍛えられていた話を聞いて、文化の違いを強く感じた。さらに韓国では戦争などの影響でマップが使えない。こんなに近くにある国なのに全然日本と違って世界には知らない事がたくさんあるのだと改めて思い知らされた。同時に、もっとたくさんの事を知りたいと思った。

### 日本人の特徴を知った

外国に行く事で、逆に日本人の特徴を知る事ができた。  
例えば、日本人が極端に時間にうるさい事だ。



### 外国人の友達ができた

一度に3カ国（韓国、中国、日本）の違う国の人と友達になれた。日をまたぐ毎に相手の事をわかり始め、最後にははじめより相手の言っている事が伝わるようになった。しかし、自分の思っている事を上手く伝えられない事が多くとても悔しく思ったので英語を話せるようになりたいと思いました。